

追手門学院大学で学ぶ皆さんへ

学生向け生成 AI 利用ガイドラインの発行について

生成 AI の精度はこの数年で劇的に進歩し、一般的に広く使われるようになっていきます。今後はさらに、社会のさまざまな場面で利用されることが予想されます。そうした社会環境においては、適切に AI を活用できる知識やスキルを身に付けることも重要になります。

そこで、追手門学院大学では、「AI を使う際に考えて欲しいポイント」や、各授業での「AI 利用の方針」、「AI の使い方」、「AI を使う責任」についてまとめた「学生向け生成 AI ガイドライン」を作成しました。授業を受講する前に必ず確認し、以下のポイントを意識して学生生活に役立ててください。

1. 「自分のため」の使い方をする（ガイドライン第1章・第3章）

AI が出した答えをそのまま提出することは、自らの成長の機会を逃すことに繋がります。AI を「答えを出す機械」ではなく、「あなたの思考を深めるパートナー」として活用してください。

2. 講義毎のルールを確認する（ガイドライン第2章）

授業によって AI の利用方針は異なります。シラバスや初回講義で示される **3つのタイプ** を必ず確認してください。

【方針 A】原則禁止 : AI 利用を認めない、自分の手と頭で取り組む科目です。

【方針 B】条件付き許可 : AI を相棒として使えますが、最終的な思考・判断・表現は自分で行います。

【方針 C】積極的利用 : AI を使いこなしてより高度な成果を出すことが求められます。

3. リスクを理解する（ガイドライン第4章）

AI を利用する際は、事実と異なる情報を断言したり存在しない文献を捏造したりする可能性があるため、常に情報の正確性を自ら検証する必要があります。また、機密情報の保護の観点から、個人情報や未発表の研究データなどは絶対に入力してはいけません。さらに、AI の出力が他者の権利を侵害していないか、著作権の尊重に常に注意を払うことが求められます。

以 上

学生向け 生成 AI 利用ガイドライン

学校法人追手門学院

追手門学院大学

はじめに――このガイドラインを読むあなたへ

ChatGPT、Gemini、Copilot、Claude――あなたはすでにこれらのツールを知っているかもしれませんが、日常的に使っているかもしれません。このガイドラインは、それらを禁止するためのものではありません。

追手門学院大学（OIDAI）は、「独立自彊・社会有為」を教育理念としています。現代の社会においても、変わらず自ら問いを立て、自分の軸で判断し、社会に貢献できる人物が求められています。AI が瞬時に「答え」を出力できる時代に、この精神はむしろ重要性を増しています。

AI が出した答えをそのまま受け入れる人と、「本当にそうだろうか？」と問い直す人。社会からより求められるのは、後者です。

このガイドラインは、あなたが後者になるための手引きでもあります。AI を賢く使い、AI に流されず、自分の頭で考え、自分の言葉で表現し、他者と協働して新しい価値を創る――その力を、OIDAI 在学中に身につけてください。

第1章 AIを使うときにいつも考えて欲しいこと

ポイント1：その使い方は「自分のため」になっているでしょうか

AI はとても便利なものです。使い方によって、あなたの可能性を広げることができます。あなたが大学において経験する様々なことは、「成果物」だけで評価できるものではありません。そこに行き着くまでの過程であなたが行った試行錯誤そのものがかけがえない貴重な経験としてあなたの力を育ててくれます。

本学はあなたが AI を使うとき、あなたのためになっているかどうかを大事にしたいと考えています。ですから、例えばあなたが AI が生成したコンテンツ（文章・画像など）を、自分が作ったものとして提出することは他人のレポートをコピーして提出するのと同本質的に同じ損失があなた自身にあります。AI に答えを出力させてそれを提出することは、あなたの成長の機会を自ら放棄することに他ならないからです。AI を用いて可能性を広げるために、どのように使えるか、考えてみましょう。

ポイント2：AI の出力は本当に正しいのでしょうか

生成 AI は「確率的にもっともらしい」文章を生成する機械であり、「真実」を語る機械ではありません。AI を使用する上では以下のリスクを受け入れて自分で取捨選択することが求められます。（実際にこれまで教員が指導の現場で経験しているものです。）

- 存在しない参考・引用文献を捏造することがあります（ハルシネーション）
- 事実と異なる情報をもっともらしく断言することがあります（ハルシネーション）
- 偏りのある意見を中立的であるかのように提示することがあります（バイアス）
- AI の出力が最新の情報に基づいていないことがあります（情報のカットオフ）

AI の出力は、あくまで「出発点」であり「下書き」です。そこから先、信頼性の高い情報に当たって裏付けを取ることが、あなたの責任です。それゆえ、AI の出力をそのまま提出することは厳禁です。

ポイント3：入力しようとしているデータは公開してよいのでしょうか

AI はあなたの相棒になり得ますが、相棒は「外部の企業が運用しているサービス」です。あなたの入力したデータは、第三者に見られてよいものか、入力前に確認をしましょう。

特に他者の権利とプライバシーを守るために、以下のデータを入力してはいけません。

- 他人の個人情報（友人の名前、電話番号、住所、SNS アカウント等）
- 企業の機密情報（インターンシップ先の内部資料、業務データ等）
- 研究室の未発表データ（実験結果、研究計画、査読中の論文等）
- 自分自身の個人情報（マイナンバー、クレジットカード番号等）

ポイント4：AI が出力したものが「他の何か」に似ていないでしょうか

AI を開発する過程において、様々な著作物が用いられています。著作物を学習に利用することは日本において合法ですが、AI を利用して生成したコンテンツ（文章・画像・映像・音楽など）が他者の著作権を侵害していると認められる可能性があるため、文化庁が見解を示しています。

AI の出力には、他者の著作物と類似した内容が含まれる可能性があります。AI が生成した文章・画像を公表する前に、他者の権利を侵害していないか、あなたの創作物の延長でオリジナルのものであるかを確認してください。

第2章 本学の講義における AI の利用について

2.1 講義毎の方針を確認しましょう

各授業では、教員が AI 利用の方針をシラバスまたは初回講義で示します。

方針は以下の3段階のいずれか、または講義毎の組み合わせによる指定です。

シラバスに AI 利用方針の記載がない場合は、授業担当教員に直接確認してください。

【A】原則禁止

AI の利用を認めない科目です。自分の手と頭で取り組みます。この方針が設定されている科目は、AI を使わないことにこそ意味があります。語学の基礎力、文章を書く力、計算する力など、自分で努力して身につけることで獲得できる講義において、この方針をとられることがあります。

【B】条件付き許可

AI を「相棒」として使えますが、条件があります。AI をブレインストーミングや校正に使うことは認められますが、最終的な思考・判断・表現は自分で行います。AI との対話ログの提出や、AI 利用箇所の明記が求められる場合があります。

【C】積極的利用

AI の利用を前提とし、AI を使いこなしてより高度な成果を出すことが求められます。AI の出力をそのまま提出するのではなく、AI の誤り・偏り・限界を自分で見つけ、修正し、独自の視点を加えることが求められます。

2.2 特に気をつけてほしいこと

教員が講義で提示している著作物の中には、著作権法に基づき本学が SARTRAS(授業目的公衆送信補償金等管理協会)に補償金を支払って利用しているものが含まれます。教員の講義資料やその他の著作物をあなたが AI の入力に使用しようとする前に、それが適切な行為であるかどうか、必ず教員の確認をとるようにしましょう。

第3章 AI を使ってみよう

3.1 AI が強いところ

AI は、様々な分野データから学習をして開発されているため、「より多くの視点を持っている相棒」だと考えることができます。また、膨大なデータを瞬時に読み取ることができるため、「多くの情報を整理してまとめる相棒」としても活用できます。さらに、私たちには言語の壁がありますが、AI にはありません。「ほとんどの言語を理解して、内容を教えてくれる相棒」にもなり得ます。

これらを組み合わせると、例えばあなたが何かに取り組むとき、まだ考えていない論点はないか？ 情報の抜け漏れはないか？ 世界ではどう議論されているのか？ について、あなたを強力にサポートしてくれる相棒になります。

3.2 AI が（まだ）弱いところ

AI は入力された情報を用いて様々な処理ができます。逆にいえば、「入力されていない情報」を正しく用いることはできません。第1章で触れたハルシネーション（誤った情報が提供される）が起こるとき、AI に与えている情報が少ない場合があります。

AI はあなたの相棒になり得ますが、あなた自身の考えを伝えていない状態では「一般的な相棒」であって、あなたの相棒にはなりえません。AI に対する指示は十分に具体的に、あなたの求めている回答や制作物のサポートをしてくれる相棒になってもらいましょう。（入力するデータに注意することも必要です）

3.3 時にはAIを「使わない」ことにも意味があります

自分で文章を書き、計算し、調べる過程で得られる「経験」は、AI では代替できません。あなたが手書きで考えをまとめるとき、検索エンジンで一つずつ情報を確認するとき、辞書を引しながら外国語の文章を読むとき、そこには、AI が出力する「答え」にはない、あなた自身の「問い」が生まれる余地があります。

3.4 AI を自分の考えの「壁打ち相手」にしてみよう

AI に対して「自分の考えをぶつけて、自分一人ではできない思考の相棒として」使うことができます。例えば、レポートのテーマを探している場合「〇〇についてのレポートを書いて」と聞かずに、「私は〇〇に興味があるが、まだ議論が分かれている論点は何か」や「私は〇〇について だと考えている。この考えの弱点はどこにあるか」など、自分の考えとともに AI に問いかけてみてください。

ポイントは、自分の考えを AI に示しておくことです。そうすることで、AI が持つ様々な情報の中から、あなたの興味関心に沿った、一般論ではない視点を得られるでしょう。また、その視点を得たあなたが新しい考えにたどり着くためのきっかけになるでしょう。

3.5 AI の出力を「思考の叩き台」にしよう

AI は何度でもあなたの問いに向き合ってくれます。AI の出力は、完成品ではなくあなたの思考の叩き台です。以下の 4 つのステップで活用することを推奨します。

ステップ 1：自分で考える ―― まず、AI を使わずに自分の考えを整理します。

ステップ 2：AI にぶつける ―― 自分の考えをプロンプトに含めて AI に聞きます。

ステップ 3：AI の出力を検証する ―― 信頼できる情報源に当たって検証します。

ステップ 4：自分の言葉で再構成する ―― 自分の言葉で最終的な成果物を作ります。

3.6 複数の AI の出力と比べてみよう

AI は様々なデータから学習して開発されており、提供事業者ごとに学習の手法も学習データも異なるため、出力される結果もそれぞれのサービスで異なります。したがって、一つの AI だけに頼るのではなく、複数のサービスを用いることで多様な視点に気付くことができるかもしれません。同じ質問を複数の AI（ChatGPT、Gemini、Copilot、

Claude 等) に聞いて確認することを推奨します。ただし、入力するデータには十分注意してください。そして、あなた自身の考え・価値観も大事にしてください。

第4章 AI を使用する責任について

4.1 AI は相棒、責任はあなたに

AI が出力したのも、あなたの名前で提出・公開されたものに関わる責任はあなたにあります。AI サービス事業者が代わりに責任を取ってくれることはありません。

- AI の出力は自分の考えの過程で用い、成果物は自分の力で完成させましょう
- AI を利用した場合には、必ず AI を利用して行ったことについても報告しましょう
- AI 利用を制限されている場合は、自分自身の力を信じてチャレンジしましょう

4.2 法的リスク

(1) 著作権侵害のリスク

あなたが AI を利用する場合、①AI に他人の著作物を学習させる段階と、②AI に指示して著作物を生成し利用する段階とが考えられます。

①について、あなたが AI に他人の著作物を使って学習させることは、基本的に著作権侵害となる可能性は低いと思います。

しかしながら、例えば、特定のクリエイターの著作物の表現（あるいはそれに類似した表現）を AI によって生成させることを目的として、意図的にその特定のクリエイターの著作物のみを AI に学習させるようなことをした場合、AI に学習させるということにとどまらず、その特定のクリエイターの著作物の表現を享受しようとするものとなるため、その著作物の著作権侵害となる危険があります。

また、大量の情報を容易に情報解析に活用できる形で整理したデータベースが販売されている場合に、このデータベースを AI に学習させるようなことをしたときも、そのデータベースの著作者の利益を不当に害するものとして著作権侵害となる危険があります。

あるいはまた、他人の著作物の海賊版を、海賊版であることを認識しながらこれを使っ

て AI に学習させるようなことをした場合も、他人の著作物の著作権侵害とされる危険があります。

上記②について、あなたが AI に指示して生成し利用した著作物が他人の著作物に類似している場合、AI がその他人の著作物を学習していたときには（または学習していた蓋然性が高いときには）、あなたがその他人の著作物のことを認識していなくても、その他人の著作物の著作権侵害となる危険があります。（ただ、AI に、AI の学習のために使った他人の著作物の表現をその AI による生成物に使わないような技術的措置が講じられているような場合には、その AI によって生成された著作物がその他人の著作物に類似していても、たまたま類似していただけとされて、著作権侵害となる危険は小さくなります。）

また、あなたが AI に指示して著作物を生成する場合に、その指示（プロンプト）の中で特定の著作物の内容、題名、キャラクター名などを使い、AI の生成した表現物がその特定の著作物に類似したものとなっているようなときも、その特定の著作物の著作権侵害となる危険があります。

このように、AI を利用する場合には著作権侵害の危険がありうることを十分認識しておく必要があります。

(2) 個人情報などの侵害のリスク

あなたが保有している他人の個人情報や、あなたがアクセスすることができるインターネット上の企業情報、研究室の情報などは、その情報の利用目的の範囲内で（他人や企業の認めてくれている正当な情報の使い道の範囲内で）利用することができるにとどまります。したがって、あなたは、他人の情報や企業情報などを、そのような目的以外に利用することはできませんし、無断で第三者に情報提供することもできません。そのようなことをした場合は、不法行為をしたとして損害賠償責任を追及される危険があります。

個人向けの AI は、あなたが学習させた情報を、その AI の能力向上に利用され（デフォルト設定という）、あなたの望まない形で外部に利用・流出されてしまうことがあります。このため、そのような AI にあなたが他人の情報や企業情報などを使って学習させてし

まうと、それらの情報の利用目的外の利用になってしまったり、無断での第三者への情報提供になってしまったりする危険があります。あなた自身の個人情報を AI に学習させたときも、あなたの個人情報が外部へ流出してしまう危険もあるものです。

そのようなことにならないため、あなたが使用する AI の規約の内容（あるいは規約の変更）や、デフォルト設定をオフにすることができるようになっているかどうかなどをきちんと確認しておく必要があります。

そして、本学は、根本的に、以下の情報は AI に入力・学習させることを禁止していますので、十分に注意をしてください。

カテゴリ	具体例
自分の個人情報	マイナンバー、クレジットカード番号、パスワード
他人の個人情報	友人の名前・住所・電話番号・SNS アカウント
企業の機密情報	インターンシップ先の内部資料、営業データ、顧客情報
研究室の情報	未発表の実験データ、研究計画、投稿中の論文原稿
大学の内部情報	試験問題、成績情報

4.3 AI 検知・剽窃検知ツールについて

教員があなたの提出課題に対して、AI 検知・剽窃検知ツールを使用して検証を行う場合があります。自らが提出したものについて、教員から質問を受けた際に、その作成方法や中身について、口頭で説明を求められる場合があります。また、その場合の AI 利用による責任はあなた自身にあります。

（初版 2026 年 3 月 16 日）